政策	63 観光レクリエーションの振興							
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	有	受益者負担	余地有		
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有		
対象	観光客							
施策が目指す姿	地域を支える重要な活性化策のひとつとして、魅力的な観光資源を活かした、来客者の多様なニーズを充足する総合的な観光地づくりを推進するとともに、業種や市町の垣根を越えた連携強化や観光資源のネットワークの構築により、観光地としての新たな付加価値の創出を図る。							
成果指標	観光客入込数：5年間で650万人（現状値604万人）							
目標達成状況		平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	成果指標1 [人/年]	予定	6,100,000.00	6,200,000.00	6,300,000.00	6,400,000.00	6,500,000.00	
		実績	6,009,231.00					
	成果指標2 []	予定						
		実績						
	成果指標3 []	予定						
		実績						
	成果指標4 []	予定						
実績								
トータルコスト (千円)	予定	427,446	372,488	378,587	0	0		
	実績	414,514	363,011	378,587	0	0		
内部評価	貢献度	基本方針を実現するためには、観光ネットワークの形成、新たな付加価値の創造、魅力ある観光拠点の形成など総合的な観光地づくりの推進が重要であるため、貢献度は高い。						
	達成状況	目標値を達成することはできなかったが、各事業は適正に行われており、入込数は毎年増加傾向にある。						
	課題	destinationキャンペーンの開催により、県や関係機関との連携が強化されたが、今後も引き続き連携し、戦略的な事業を展開する必要がある。						
	取組方針	観光基本計画に位置付けた施策を着実に実行し、実施事業の検証・改善を行い、行政のみならず関係機関や市民と連携した事業に取り組む。						
外部評価	身近にあるため気づかないモノや場所が、観光客が求めていることもあるので、ニーズ調査により把握し早急な対応を願う。 地域ワーキンググループを活用し、資源の活用方法の検討することで、新たな付加価値の創造にもつながることを期待したい。							
基本施策達成のための単位施策	施策コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度	
	6301	魅力ある観光交流・レクリエーション拠点の形成				345,856	100	
	6302	観光ネットワークの形成				50,039	100	
	6303	新たな付加価値の創造				18,619	100	

基本施策評価表 補表

施策	63 観光レクリエーションの振興		
区分	妥当性	妥当	魅力ある観光地づくりの推進においては、関係者や観光資源間の連携が重要であり、各種事業の実施は妥当である。
	コスト削減の余地	有	事業実施における効果を検証することでコストの再確認を行い、適正な執行に努める必要がある。
	受益者負担	適正	一部負担による事業実施のほか、広告掲載料や敷地使用料による料金収入などを研究する余地はある。
	上位貢献度	有効	「観光客入込数」増加のための貢献度は有効である。
	類似事業の有無	無	他の類する事業はなく、代替えは困難である。
	成果向上の余地	有	観光基本計画に位置付けた施策の実現により、成果向上の余地はある。
内部評価	貢献度	基本方針を実現するためには、観光ネットワークの形成、新たな付加価値の創造、魅力ある観光拠点の形成など総合的な観光地づくりの推進が重要であるため、貢献度は高い。	
	達成状況	目標値を達成することはできなかったが、各事業は適正に行われており、入込数は毎年増加傾向にある。	
	課題	destinationキャンペーンの開催により、県や関係機関との連携が強化されたが、今後も引き続き連携し戦略的な事業を展開する必要がある。	
	取組方針	観光基本計画に位置付けた施策を着実に実行し、実施事業の検証・改善を行い、行政のみならず関係機関や市民と連携した事業に取り組む。	